

2010.8月号

都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



【目次】

- ・自治体総合フェア 2010に出展 P 1
- ・平成 22年度まちづくり情報交流協議会第 6 回定期総会、
講習会及び第 5 回まち交大賞表彰式の開催 P 2
- ・第 5 回まち交大賞 大賞受賞地区の紹介 P 3
- ・機構の活動状況 P 10

§ 自治体総合フェア 2010 に出展

当機構では、7月14日（水）～16日（金）に東京ビッグサイト＜東京国際展示場＞東展示棟において開催された、（社）日本経営協会主催（後援：国土交通省・経済産業省・総務省他、当機構協賛）の「自治体総合フェア」に、今年も出展しました。

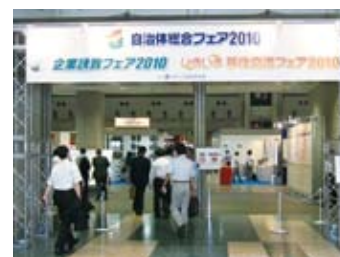
自治体総合フェアは、「活力ある地域社会の実現 ～明日を拓く経営戦略～」をテーマとして開催され、今回は14回目を迎えます。

展示構成は、「電子自治体推進ゾーン」「災害対策・安全安心ゾーン」「健康・福祉ゾーン」「活力・環境まちづくりゾーン」と課題別に4ゾーンに区分され、当機構は「活力・環境まちづくりゾーン」の一画に出展し、自治体・NPO・民間企業関係者等に来訪いただき、まちづくりに関しての様々な意見交換をさせていただきました。連日30℃を越える猛暑のなか、ご来場いただきました皆様に感謝いたします。

会期3日間の全体来場者数は11,190人でした。（主催者発表）

【展示パネル】

- ◇幅広いまちづくり支援活動、
- ◇都市再生整備計画制度支援、
- ◇都市再生整備計画コーディネート支援、
- ◇土地活用モデル大賞、他





§ 平成 22 年度まちづくり情報交流協議会第 6 回定期総会、 講習会及び第 5 回まち交大賞表彰式の開催

「都市再生整備計画事業」を活用して、地域の創意工夫を活かしたまちづくりの推進を目指す地方公共団体が集う「まちづくり情報交流協議会定期総会」が、7月15日（木）全国 274 地方公共団体の出席のもと、東京都港区虎ノ門の発明会館ホールにおいて開催されました。

国土交通省都市・地域整備局の栗田卓也まちづくり推進課長並びに本協議会会長代理の稲葉輝二松山副市長にご挨拶をいただいたあと、運営規則の一部改正、平成 21 年度事業報告及び収支決算、並びに平成 22 年度事業計画及び収支予算について審議を行い、承認を得ました。

なお、総会に先立ち、下記のテーマで講習会が行われ、総会の終了後には第 5 回「まち交大賞」の表彰式が行われました。

【定期総会における議案及び報告】

- 第 1 号議案 運営規則の一部改正（案）
- 第 2 号議案 平成 21 年度事業報告（案）
- 第 3 号議案 平成 21 年度収支決算（案）
- 第 4 号議案 平成 22 年度事業計画（案）
- 第 5 号議案 平成 22 年度収支予算（案）
- 第 6 号議案 役員改選
- 第 1 号報告 平成 22 年度まちづくり情報交流協議会のありかたに関するアンケート調査
- 第 2 号報告 今後の主なスケジュール

【講習会におけるテーマと講師】

- テーマ 1 「都市再生整備計画区域内におけるまちづくり支援策（税制等）について」
講 師 国土交通省都市・地域整備局まちづくり推進課 企画法制係長 澤田斉司 氏
- テーマ 2 「都市再生整備計画を活用したまちづくりについて」
講 師 国土交通省都市・地域整備局まちづくり推進課 都市総合事業推進室 事業評価係長 大道寺崇 氏
- テーマ 3 「低炭素都市づくりガイドライン（案）について」
講 師 国土交通省都市・地域整備局都市計画課 都市環境計画係長 安永英治 氏
- テーマ 4 「まち交大賞 国土交通大臣賞受賞地区の計画概要」
講 師 豊田市都市整備部 都市整備課長 加藤国治 氏



第 6 回定期総会の様子



会場の様子



講習会の様子



第 5 回まち交大賞 各受賞者



§ 第5回まち交大賞 大賞受賞地区の紹介

5月号でご紹介した9つの受賞地区のうち、3つの大賞（国土交通大臣賞、まちづくり情報交流協議会会長賞、都市みらい推進機構理事長賞）受賞地区の概要を紹介します。

まち交ネット (<http://www.machikou-net.org/index.htm>) で、すべての受賞地区の紹介記事を掲載していますので、ぜひご覧ください。

I まち交大賞（国土交通大臣賞）

☆豊田市駅周辺地区（愛知県 豊田市）：完了地区

○計 画 期 間 平成16年度～平成20年度

○面 積 211ha

○交付対象事業費 4,210百万円

○市人口 422,865人（地区内人口12,125人）

ポイント：クルマのまち豊田市におけるユニバーサルデザインによる「歩行者空間の再構築」

地区概要：これまでの道路などの「クルマ」中心の整備から「人」に重点をおき、環境に配慮した「クルマ」と「人」の共生モデルとなる、ユニバーサルデザインによる「まちづくり」を推進することにより、「中心市街地の活性化」を図る。

目 標：「人」を中心とした事業の展開により来街促進を図り、中心市街地の活性化を図る

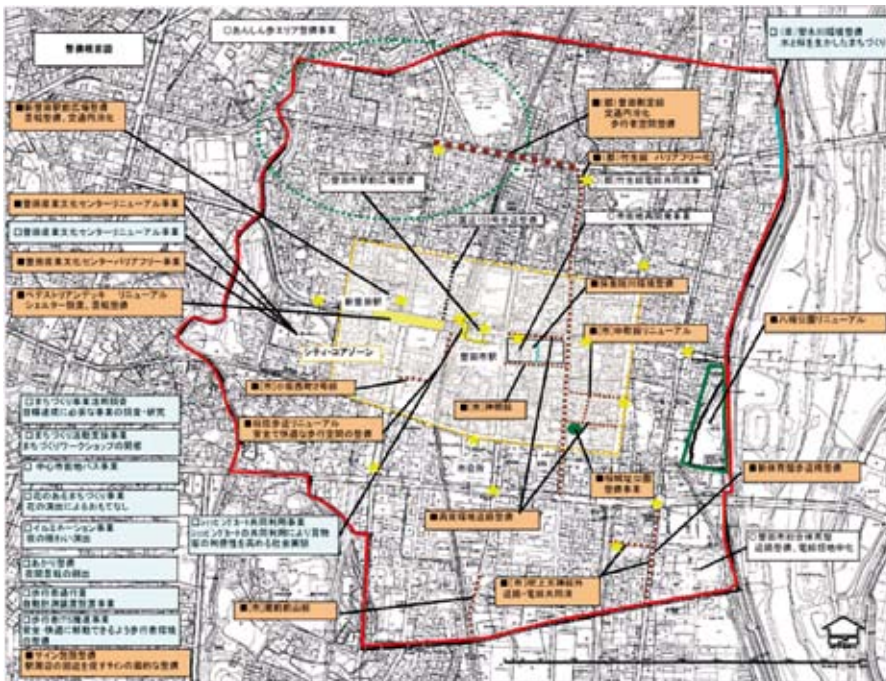
指 標：都市の魅力、快適性の向上により数値の増加を図る

デッキ歩行者数	23,128人（H15）	→	32,064人（H22）
商業販売額	28,327百万円/年（H14）	→	31,307百万円/年（H20）
従業者数	1,896人（H14）	→	2,597人（H20）
居住者数	11,379人（H14）	→	12,125人（H21）

事業内容

基幹事業（3,292百万円） → 道路（6路線）、公園（2カ所）、ペDESTリアンデッキリニューアル（A=2,200m²）、緑陰歩道（L=50m）、産業文化センターリニューアル（A=680m²）、歩行者案内板整備（69箇所）

提案事業（918百万円） → 中心市街地バス事業、ショッピングカート共同利用実験、花のあるまちづくり事業、イルミネーション事業、歩行者ITS歩行環境整備





地区の現況と課題

豊田市の中心市街地は、旧^{ころも}拳母町時代からこの地域の中心市街地として発展してきましたが、近年は人口も減少傾向にあり、核となる広域商業施設の相次ぐ撤退により、賑わいが大きく低下していました。市民意識調査においても、中心市街地の活性化は、重要度が高く、満足度が低い施策評価結果となっており、早期対応が強く望まれていました。歩行者空間の不足や、高齢社会に対応したバリアフリー対策等の整備が不十分であるため、来街者の足を遠ざけることとなり、地区全体としての集客力低下の要因となっていました。

提案事業の特徴

中心市街地バス事業

環境に配慮したまちづくりを進めるため、玄関口バスを電動車いす対応型で最新の排出ガス基準をクリアした車両に更新。利用者の利便性向上を図るとともに需要予測、運行形態等の調査を行いました。

ショッピングカート共同利用実験

電波タグをつけたショッピングカートを共同で利用することにより、買物客が荷物を持って移動する負担を軽減。利用者の利便性の向上を図りました。

花のあるまちづくり事業

来街者へのおもてなしの心からペDESTリアンデッキや広場、幹線道路においてフラワーポール、花壇、ハンギングバスケット、プランターを設置しました。手入れは地元のボランティアが実施し、まちづくり機運の向上も図られました。

イルミネーション事業

冬季の来街促進のため、イルミネーション事業を展開。実行委員会を立ち上げ、民主導で事業を展開し効果をあげました。

まちづくりの効果、持続的取組み

意識改革

共働※によるまちづくりを進めた結果、地域が自主的に今後のまちづくりに関するアンケートを実施するなど、地域のことは地域で解決するという意識改革が図られました。

住民による取組み

地元住民や商店街による「八日市」や「まちかど博物館」の開催、街路植栽の自主管理や道路を使ったイベントなど、まちづくり協議会から地域全体への波及効果も現れています。今後も、「打ち水イベント」や「イルミネーション」「花かざり」等の開催が予定されるなど、市民や民間主導の持続的なまちづくり活動の基礎が形成されました。

※豊田市では市民と市が協力・連携する活動のほか、市民と市が共通する目的に対して、それぞれの判断に基づいて、それぞれ活動することも含んで、「共に働き、共に行動する」ことを意味する『共働』という言葉を使用しています。



歩車共存のみちづくり



中心市街地バス



ショッピングカート共同利用実験



ボランティアによる花の管理



民主体のイルミネーション事業



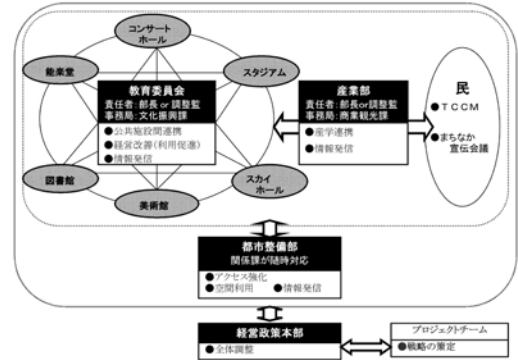
〔拳母まつり〕

毎年10月に開催され、山車の引き回しが行われる勇壮なまつり。バリアフリー化された道路はまつりの舞台としても活かされています。



豊田市長 鈴木公平のコメント

多様化する都市の課題や、合併により拡大した市域の地域課題に対応するためには、住民自らが考え行動する地域力の強化が必要と考え、市民と行政がパートナーシップ（共働）を発揮し、市民の意思をより一層施策に反映することができる取組をすすめてきました。中心市街地においては、「豊田シティセンターマネジメント（TCCM）」を設立し、まちづくり事業の官民推進体制の強化、拡充を図ってまいりました。市民・事業者・大学・行政が一体となった様々な施策の推進を図る「共働によるまちづくり」の取組が、「持続的なまちづくり活動」へと結びついたと考えております。



官民共働の推進体制の強化

竹生線沿線4自治区まちづくり協議会会長 川上道之氏のコメント

豊田市の中心市街地を南北に走る竹生線。リニューアルに伴い沿線の4つの協議会による話し合いは、各協議会の「みち」に対する思いの違いから意見がまとまらず、困難を極めました。繰り返し行われた協議会ですが最終的には意見が一つにまとまり、行政による道路事業、商店街による街路灯事業の官民一体となった整備を実現することが出来ました。4年間にわたる協議会活動で地域住民のまちづくりに対する意識が変化し、「我々がまちに来ること」という視点で様々なイベントを開催するなど今後も「みちを活かしたまちづくり」「ひとがふれあうまちづくり」を展開していきます。

桜町ほうだら会（まちづくり協議会）鈴木万衛氏のコメント

商店街を東西に貫く市道は地域住民の生活道路でもある。来街者の多くは車を利用し、毎月八日のイベント時には多数の高齢者が街路を歩き来する。

人と車が共生し、安心・安全と快適環境を目指したまちづくりは、地域住民が主体となり、計画段階から週に何度も会合がもたれた。

毎回テーマを決め、ワークショップ形式で進めるが、順調に一步一步進んだかと思えば、時には大きく後退してしまうこともしばしばあった。

問題解決に不足している部分を官民が互いに補い、共働によるまちづくりができたことは、私たち地域住民の大きな自信に繋がった。このことを誇りに思いこれからもこの街ですずと暮らしていきたい。

Ⅱ まちづくり達成大賞（まちづくり情報交流協議会会長賞）

☆富山港線沿線地区（富山県富山市）：完了地区

- 計画期間 平成16年度～平成20年度
- 面積 980ha
- 交付対象事業費 8,397百万円
- 市人口 417,600人（地区内人口50,000人）

ポイント：歴史・文化財と公共交通を活かしたまちづくり

地区概要：富山港線沿線には、岩瀬の古い街並みなどの歴史的な文化遺産が数多くあり、また、工場や住宅地が連たんしていることから、路面電車を活かした賑わいのあるコンパクトなまちづくりを進める

目標：富山港線を活性化し、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積する、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを実現する。

指標：富山港線がLRT化され、新駅設置や運行頻度が高まるなど利便性が向上するのを契機とし、岩瀬の古い街並みや歴史的な文化遺産を活用して観光客を誘導し、また沿線の都市基盤整備により定住人口の増加を図り、それぞれの相乗効果を期待するものである。

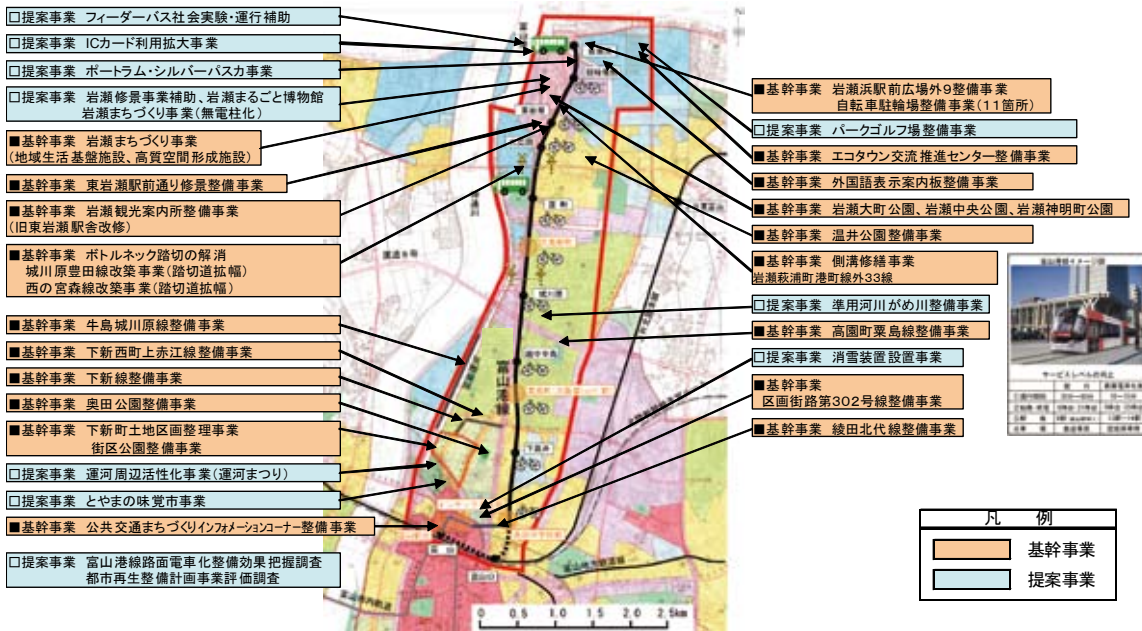
指標	従前値	評価値
富山港線の乗降者数	3,400人/日 (H14)	4,615人/日 (H20)
観光客入込数	280千人/年 (H14)	337千人/年 (H20)
居住者数	50千人 (H14)	49千人 (H20)



事業内容

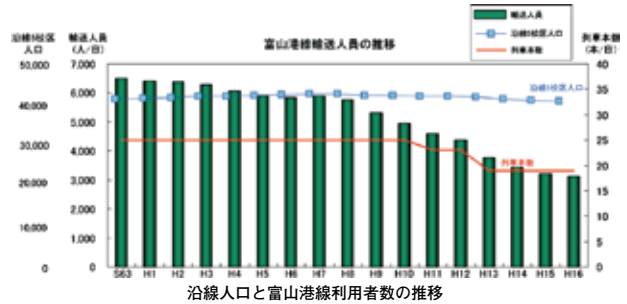
基幹事業 (6,849 百万円) → 道路 (幅員 27m ~ 6m、延長 10,385m)、公園 (6 箇所、29,708m²)、駅前広場整備 (11 箇所、2,960m²)、自転車駐車場 (11 箇所、388 台)、岩瀬サイン看板設置 (15 箇所)、エコタウン交流推進センター (1 箇所、1,163m²)、公共交通まちづくりインフォメーションコーナー (1 箇所、70m²)

提案事業 (1,670 百万円) → 岩瀬修景事業補助 (1 式)、フィーダーバス運行事業 (2 ルート)



地区の現況と課題

近年の富山港線の利用者数は減少の一途をたどり、併せて少子高齢化に伴う人口減少傾向が沿線地区でも見られ、平成7年から平成12年の5年間で人口が約3%減少しており、定住人口の増加を促すまちづくりが必要である。また、岩瀬地区は歴史的に価値のある建造物が現存する地区であるが、観光客が回遊して時間消費できるルートが無いことや、その歴史的街並みに調和した街路等の整備の実施が求められていた。



提案事業の特徴

岩瀬まちづくり事業

岩瀬地区は、「岩瀬大町新川町通り町並整備推進協議会」が策定したまちづくりの基本方針のうち、大町・新川通りを中心とした歴史的町並みに調和した街路の整備等を(行政が取り組むべき事項として)実施し、来街者が集まる賑わいのあるまちづくりを進めることとした。

また、伝統的建物の修景基準を作成し、それに合わせて建物の改修を実施する者に補助をし、歴史的街並みの保存・再生を図る。

フィーダーバス運行事業

富山港線の岩瀬浜駅と蓮町駅を基点とし、東西方向にフィーダーバスを運行することにより鉄道の支線的役割を担い、富山港線の利用者増加と公共交通不便地域の解消を図る。



国指定重要文化財 北前船回船問屋森家



まちづくりの効果、持続的取り組み

公共交通の利便性の向上と、街並みや歴史的文化遺産の活用との相乗効果により、富山港線の乗降者数の大幅な増加とともに、観光客も大幅に増加した。

また、各校区の自治振興会が中心となって組織する「富山港線を育てる会」では、電停でのプランター設置や、ベンチの寄付など、富山港線の利用促進や沿線地域のまちづくりに取り組んでいる。

さらに、岩瀬地区では地元住民による「岩瀬案内グループ」が発足し、地域の歴史の勉強など自主的な研修を行い、ガイド技術の向上を図り、観光客への案内をボランティアで行っている。



富山ライトレールとフィーダーバスの結節(岩瀬浜駅)

森雅志 富山市長のコメント

本市では、高齢化などによる移動制約者の増加や、人口減少、環境負荷の増大などの将来の諸課題に対応するため、公共交通を活用し都市機能を集約した「コンパクトなまちづくり」に取り組んでいます。

本地区では、コンパクトなまちづくりのプロジェクト第1弾である富山港線のLRT化に併せて、まちづくり交付金を活用し、駅前広場や駐輪場の整備、フィーダーバスの導入などの駅アクセスの改善をすすめるとともに、沿線での住宅建設の促進や、区画整理による緑豊かな環境の整備、さらには岩瀬の古い街並みや歴史的文化遺産、豊かな水辺空間を活用した観光客の誘致など、賑わいのあるまちの再生を目指して事業を推進してきました。

おかげさまで減少傾向にあった富山港線利用者や岩瀬地区を回遊する観光客入込数も増加に転じ、事業の効果が現れているものと考えております。



「岩瀬案内グループ」の活動



「富山港線を育てる会」の様子

富山港線を育てる会会長 亀谷義光氏のコメント

富山市が中心に進めた富山ライトレールは平成18年4月に走り出して5年目を迎えました。沿線住民、特に高齢者の利用が格段に増えたことと、車から電車への転換者が激増したことから、以前の富山港線時代の利用者は1日2,200だったものが、現在4,500人以上と倍以上の利用者増となり今日まで続いております。また沿線には住宅、マンション等が増加傾向にあり、活気を取り戻しつつあります。

Ⅲ 創意工夫大賞（都市みらい推進機構理事長賞）

☆アーツ・トワダまちづくり地区（青森県十和田市）：計画地区

○計画期間 平成21年度～平成25年度

○面積 151ha

○交付対象事業費 792百万円

○市人口 65,852人（地区内人口 2,536人）

ポイント：現代アートによる新たな魅力を活用した中心市街地の活性化

地区概要：十和田市現代美術館を拠点として、「現代アート」の魅力を中心市街地に展開し、多くの人々が交流し、賑わいの活動を行う環境づくりを進め、中心市街地の活性化を図る。

目標：「アートの感動を共有する賑わいの街とわだ ～人々が集い、暮らし、活動する中心市街地を目指す～」をテーマに魅力的な市街地の形成、快適な空間・機能の集積を図る。

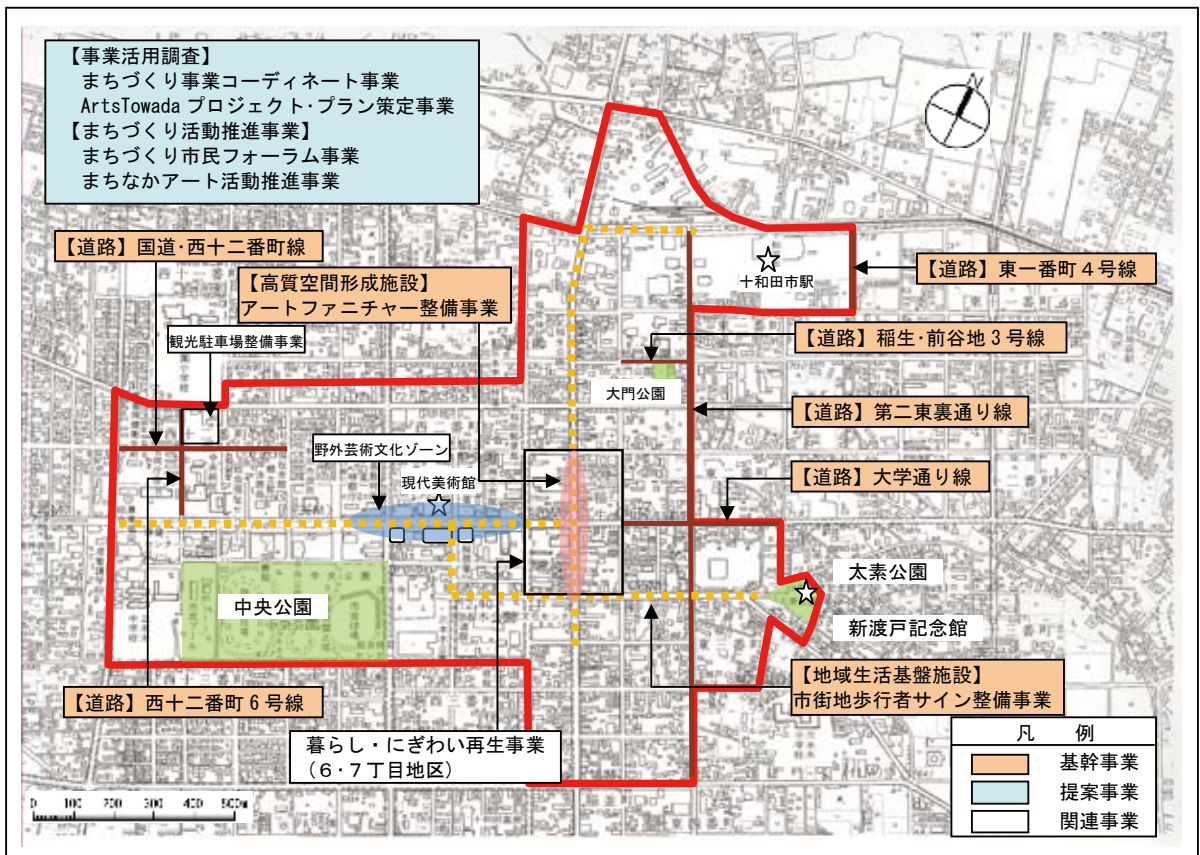
指標：「現代アート」の魅力を中心市街地に展開し、多くの人々が交流し、賑わいの活動を行う環境づくりを進め、中心市街地の活性化を図るため、歩行者・自転車通行量等を指標とした。



歩行者・自転車通行量	1,786人	H20	→	1,900人	H25
空き店舗率	26.2%	H20	→	25.0%	H25
公共施設利用者数	475,505人	H20	→	511,000人	H25

事業内容

基幹事業（670百万円）→ 道路（6路線）、市街地歩行者サイン整備、アートファニチャー整備
 提案事業（122百万円）→ まちづくり事業コーディネート事業、ArtsTowadaプロジェクト・プラン策定事業、
 まちづくり市民フォーラム事業、まちなかアート活動推進事業



地区の現況と課題

- ・中心市街地において、空き店舗の増加、地区内の人口減少など活力が低下している。
- ・十和田市現代美術館を中心とした官庁街通り沿いに、現代アートをテーマとして、まち全体を美術館に見立てた野外芸術文化ゾーン構想が展開されており、新たな魅力が加えられている。
- ・中心市街地に集積した既存ストックの活用などを通じた安全・安心な市民生活を確保・充実させつつ、現代アートの魅力を中心市街地に展開し、多くの市民が感動や楽しさ、美しさを共有できるまちづくりが課題となっている。

提案事業の特徴

ArtsTowada プロジェクトプラン策定事業

中心市街地活性化におけるアートの活用方法について、市民、行政、専門家の協働で、一定の方向性を定め、実施する整備事業等に活かしていく。

まちなかアート活動推進事業

アートを中心市街地へ広げていく仕掛けとして、現代美術館と商店街とが連携した参加型のアートイベントを実施する。



計画策定プロセス

野外芸術文化ゾーンの拠点施設である現代美術館の開館を受け、これを中心市街地活性化へ活かす手法を探るため、一般公募による市民、中心商店街関係者及び美術館職員などの参加により、平成 20 年度にワークショップを開催し、その意見を都市再生整備計画の策定に活用した。

小山田久 市長のコメント

当市では、十和田市現代美術館を拠点に「官庁街通り」という屋外空間を一つの美術館に見立て、アートによるまちづくりを展開する「野外芸術文化ゾーン」の整備に取り組んでまいりました。この美しい自然や街並みを背景とする「野外芸術文化ゾーン」が平成 22 年 4 月にグランドオープンして以来、多くの市民や観光客が訪れ、賑わいをみせております。

そして、いよいよ 12 月 4 日には、東北新幹線「七戸十和田駅」、「新青森駅」が開業いたします。この開業効果を最大限に享受していくためにも、今回の栄えある「創意工夫大賞」の受賞を励みに、商店街の皆様をはじめ市民や関係者の皆様と手を携え、現代アートの魅力を活かしながら中心市街地全体が感動や楽しさ、美しさを共有できるまちづくりを進めてまいります。

十和田市中心市街地活性化協議会 石川正憲 会長のコメント

新渡戸親子三代による開拓に始まり、国営三本木原開墾事業、そして軍馬補充部三本木支部の設置など、十和田市の「まちづくり」はその開拓の歴史の中で培われてきました。そして今まさに、現代アートを起爆剤として中心市街地の活性化を図ろうとする当市にとって、このような評価をいただいたことは、誠に勇気づけられるものであります。

当市のまちづくり事業には、今いくつかの商業施設整備計画が存在しますが、市街地歩行者サイン整備事業やアートファニチャー整備事業などの都市整備再生計画の対象事業においては、点在する歴史・文化・施設、中心商店街、飲食店などをつなぐ重要な事業として大いに期待するものです。

今後も、「人々が集い、暮らし、活動する中心市街地」を目指し、行政とも連携をとりながら、その責務を果たしてまいりたいと存じます。

十和田市商店街連合会 今泉礼三 会長のコメント

日本の道百選の官庁街通りに十和田市現代美術館がオープンして、3 年目を迎え、年間十数万人の来館者が訪れています。その美術館からわずか 250m のところに、中心商店街があります。

これまで商店街では美術館との連携・協力による展覧会などを実施してきており、マスコミにも取り上げられ、お客さんにも好評を得ていますが、販売促進に向けた本格的な取組みはこれからだと思っています。

今回の創意工夫大賞の受賞を機に、より現代美術館と商店街が一体となった賑わい空間が実現できるよう努力してまいりたいと思います。



十和田市現代美術館



アート広場



まちなかアート活動推進事業

アート作品を店舗内に展示



美術館の企画展とコラボして、中心市街地で身近なものに帆布で作ったまわしとシコ名をつけるプロジェクト



市民ワークショップ



§ 機構の活動状況

日	8月	日	9月
1	南房総市幹部と意見交換	4	上田市文化・交流施設等設計者選定専門委員会(第1回)
1	プロジェクト説明会(スカイツリー周辺開発計画について)	8	地域活性化統合事務局と意見交換
13	相模原市と情報交換	10	葛飾区と意見交換
14～16	自治体総合フェアに出展	10	首都高速道路(株)と意見交換
21	海老名市と意見交換		
21	日本郵政と意見交換		

【機構関係諸団体】

《都市地下空間活用研究会》

5	八重洲・京橋・日本橋地区分科会幹事会	5	大阪分科会国交省活動報告
6	八重洲・京橋・日本橋地区分科会国交省活動成果報告	6	八重洲・京橋・日本橋地区分科会幹事会
8	地下利活用検討分科会 W2	19	京急羽田地下駅見学会
13	地下利活用検討分科会丸の内国交省打合せ	19	事業部会
14	八重洲・京橋・日本橋地区分科会		
21	中野区酒井副区長 ACUUS 報告書説明		
21	東京都活動報告		
22	丸の内地下公共歩道国交省意見交換会		
27	地下街耐震調査報告書国交省説明		
27	八重洲・京橋・日本橋地区分科会提案国交省打合わせ		
28	京急見学会打合せ		
29	大阪分科会		
30	大阪市活動報告		

《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

12	技術研究発表委員会	5	技術研究発表委員会
20	低炭素都市づくり研究会(第2回)	19	京急羽田地下駅見学会(主催地下研)
		24	低炭素都市づくり研究会(第3回)

《まちづくり情報交流協議会》

7	国土交通省打ち合わせ		
15	春季大会(講習会、総会、表彰式等)		
22	企画運営委員会(秋季研修会講師について)		
27	企画運営委員会(共同研究内容について)		

(財)都市みらい推進機構

住所 東京都文京区音羽2-2-2
アベニュー音羽3階
電話 03-5976-5860
FAX 03-5976-5858
Email kikaku@toshimirai.jp

ホームページもご覧下さい
<http://www.toshimirai.jp/>

当機構は、「新しい都市拠点形成等の都市活性化に関する総合的な調査・研究、情報・資料の収集等、民間の技術と経験を活かしつつ、地域社会と調和した活力ある都市づくりの推進を図ること」を目的として、昭和60年7月29日に設立された財団法人です。

- ・まちづくり交付金事業支援
- ・都市拠点開発・都市再生支援
- ・中心市街地活性化支援
- ・低・未利用地有効活用支援 他